

図書だより

6月

今月の目標！

◇平和についての本を読もう
令和7年6月号



平和と戦争についての本を読んでみよう！



2025年、沖縄戦から80年の節目の年を迎えました。「鉄の暴風」により、沖縄では20万人をこえる人々が犠牲になりました。沖縄県は6月23日を「慰霊の日」と定め、戦争でなくなった人々の霊をなぐさめ、平和を祈る日としました。八重山でも戦争被害でたくさんの方が亡くなりました。そして、世界では今も、戦争で苦しんでいる人々がたくさんいます。戦争や平和について書かれた本や絵本を読んで、人々が戦争でどんな思いをしたのか、どうしたら平和な世界になるのかを考えるきっかけにしてください。



『マンガで伝える沖縄戦 上』

仲本文子/作 琉球新報社

「本を読むのが苦手な人や、漢字の読めない子どもにも沖縄戦を伝えたい」という思いで作られた本。下巻には八重山の強制疎開と戦争マラリアについても描かれています。



『絵が語る八重山の戦争』

潮平正道/著 南山舎

八重山では「戦争マラリア」で罪もない住民が何千人も亡くなりました。私たちが暮らす八重山でこんな戦争が実際にあったことを、どうしても伝えておきたいという思いで、潮平さんが描いた59枚の絵と説明で語ってくださっています。



『みのかさ隊奮闘記』

儀間比呂志/文・絵 ルック

戦争末期の石垣島で少年から老人まで軍隊経験のない人たちでつくられた「みのかさ隊」の物語。スコップで身を守り、白保飛行場の修復をしたそうです。



『テツちゃんの十五年戦争』

宮里テツ/文 沖縄自分史センター

この物語の主人公「テツちゃん」は石垣島で小学校の先生をしていました。テツちゃんが赤ちゃんのころから十五歳になるまで、日本はずっと戦争をしていました。戦争中の石垣島ではどんな暮らしをしていたのでしょうか。



『四人の兵士のものがたり』

代田昇/作 宮良貴子/絵 理論社

戦争中、アメリカ軍に見つからないよう命からがら舟で逃げてきた4人の若い兵士たち。「わしらのむすこになった」と言って、助けてあげた久米島阿嘉のおばあたちは、「死んでないよ。ぬちどう たからやびん。」と命の大切さを教えてくれました。本当のお話です。



『対馬丸とボーフィン』

池澤夏樹/文 黒田征太郎/絵

スイッチパブリッシング

学童疎開船の「対馬丸」は、アメリカの潜水艦「ボーフィン」の魚雷攻撃によって沈没しました。約800人の子どもたちを含む1484人が犠牲となりました。もし、この二艘の船が話すことができたなら…。物語はそれぞれの立場から対話形式で進んでいきます。



『へいわってどんなこと？』

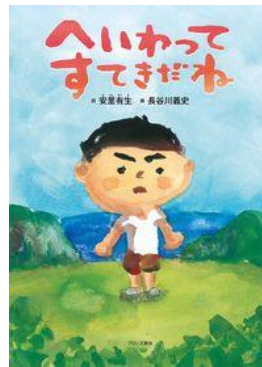
浜田桂子/作 童心社



きつとね、へいわってこんなこと。へいわは、おなかがすいたら、だれでもごはんがたべられる。ともだちといっしょにべんきょうだってできる。おもいっきりあそべる。いやなことはいやだって、ひとりでもいけんがはいえる。

『へいわってすてきだね』

安里有生/詩 長谷川義史/画



よなぐにしま すしょうがく ねんせい
与那国島に住む小学1年生のあさとゆうきさんが書いた詩を見て聞いて沖縄のおじい、おばあがなみだ涙をながしました。「このへいわがずっとつづいてほしい」というゆうきさんの「平和のメッセージ」を、はせがわよしふみさんがえほんにしました。

『へいわとせんそう』

谷川俊太郎/文 Noritake/絵

ブロンズ新社



へいわのかぞく/せんそうのかぞく
へいわのどうぐ/せんそうのどうぐ
「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにがかわるのでしょうか。おなひとおなじ場所をくらべるとちがいがみえてくるかな。なにがちがう？なにがおなじ？

『せんそうしない』

谷川俊太郎/文 江頭路子/絵

講談社



「こどもと こどもは せんそうしない けんかは するけど せんそうしない」にんげんいがいのちきゅうじょうのいきものはだれもせんそうしません。なぜにんげんのおとなだけが、せんそうをやめられないのでしょうか。

『戦争と平和を見つめる絵本 わたしの「やめて」』

自由と平和のための京大有志の会/文

塚本やすし/絵 朝日新聞出版



きょうとだいがく がくせい せんせい ちゅうしん
京都大学の学生と先生たちが中心となり、世界中が平和で自由であるために考えた文を、子どもが読みやすいようにした絵本。わかりやすいことばを使ってひらがなで書いてあります。親子で戦争と平和、命の重みについて考える絵本です。

『だれのこどももころさせない』

西郷南海子/文 浜田桂子/絵

かもがわ出版



「きょうのよる、せんそうにならないう？」4歳の女の子がママに聞きました。日本に住むわたしたちの家に、今夜爆弾が落ちてくるとは考えにくいですが、世界には爆撃のなかで眠れない夜をすごしている子どもたちがいます。世界にたったひとつのいのちを「ころさせない」希望の絵本。

『いえ あるひせんそうがはじまった』

カテリナ・ティホゾーラ/作

オレクサンドル・プローダン/絵 汐文社



2022年2月、ロシアがウクライナ侵略を開始。おおぜいの人々が突然「いえ」をうばわれました。パパとママと犬のテレシクと一緒に、すてきないえに住んでいた主人公の「ぼく」も。いまだ戦争が続くウクライナ。この絵本にはウクライナの団結と抵抗のシンボルが、たくさん描かれています。

『戦争をやめた人たち』

…1914年のクリスマス休戦…

鈴木まもる/文・絵 あすなろ書房



「第一次世界大戦中のドイツ軍とイギリス軍。彼らはなぜ戦争をやめることができたのでしょうか？今から約100年前のクリスマスの夜に戦場であった、ほんとうのお話。国を大きくするよりもたいせつなことがわかった兵士たちの物語。」